教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 食物栄養学科　　資格： 助教　　氏名： 志摩　史子

研究分野	研究内容のキーワード
応用栄養学	応用栄養、スポーツ栄養
学位	最終学歴
博士（食物栄養学）	

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.管理栄養士	2016年6月17日	第211199号
2.栄養士	2016年3月31日	第10721号（奈良県）
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
3 学術論文				
1.健常成人における低糖質おはぎの血糖上昇抑制効果	共	2023年	栄養科学研究 12: 1-6, 2023	著者：小島史子、山本周美、北村真理、辻久美子、戸島大作、倭英司 エリスリトールを主とした甘味料と大麦を配合した低糖質おはぎを作成し、食後の血糖上昇とセカンドミール効果について検討した。健常成人における低糖質おはぎの摂取は、食後の血糖上昇を抑制する可能性が示唆された。
2.2型糖尿病患者の心理学的視点からみたセルフコントロール能力と食行動特性および臨床指標との関係（査読付き）	共	2023年	日本病態栄養学会雑誌 26(4): 317-325, 2023	著者：小島史子、福田正博、倭英司 2型糖尿病患者において、セルフコントロール能力は食行動特性と関連し、その結果BMI やHbA1c に影響することが示唆された。また、これらの結果に性差が認められたため、性差を考慮したアプローチが必要である可能性がある。
3.2型糖尿病患者におけるGrit（やり抜く力）および先延ばしと食行動との関連（査読付き）	共	2023年	日本病態栄養学会雑誌 26(3): 225-231, 2023	著者：小島史子、福田正博、倭英司 2型糖尿病患者において、食行動とGritおよび先延ばしが関連することが示唆された。患者の心理特性に合った食行動の指導が、食事療法の継続を支援する可能性が考えられた。
4.2型糖尿病患者における食物選択動機が血糖コントロールに及ぼす影響（査読付き）	共	2022年	日本病態栄養学会雑誌 25(4): 263-270	著者：小島史子、福田正博、倭英司 2型糖尿病患者において食物を選択する際、メディア情報や人気を重視する女性は、血糖コントロールが不良であり、その背景には食行動特性の「体質に関する認識」の歪みと行動経済学特性の「損失回避性」がある可能性が示唆された。
5.2型糖尿病患者の幼少時の菓子類摂取と食	共	2019年3月	栄養科学研究 7: 1-5, 2018	著者：小島史子、福田正博、倭英司 幼少時の菓子類摂取は成人以降の食行動の悪化に影響を及ぼすこと

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
行動の関係（査読付き）				がわかった。幼少時からの食育は食行動の変化を介して、生活習慣病の発症に関与する可能性がある。
6.女性若手ゴルフ選手を対象とした暑熱順化トレーニングによる体温調節反応 及び発汗機能の変化（査読付き）	共	2018年	広島体育学研究 44:10-18, 2018	著者：小島史子、鬼塚純玲、長谷川博 アアマチュアゴルフ選手において、10日間の暑熱順化トレーニングにより、暑熱順化の指標である運動時の体温上昇度の低下、発汗量の増加及び心臓循環系の改善が観察された。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.幼児の保護者へのお手伝い実践に関する食教育支援による効果	共	2024年9月	第71回日本栄養改善学会総会	発表者：村上亜由美、志摩史子、岸本三香子 保護者を対象に、子どもの年齢別に具体的なお手伝いの内容や料理レシピを提示する食教育支援によって、幼児の食環境が良くなり、また、お手伝いの実践は幼児の野菜類嫌いを軽減する可能性が示唆された。
2.朝食たんぱく質摂取介入による幼児の健康状態への影響	共	2024年9月	第71回日本栄養改善学会総会	発表者：岸本三香子、志摩史子、村上亜由美 朝食における保護者による食介入は幼児の生活状況に影響すると考えられたが、調査開始時の幼児の生活習慣や健康状態は良好であり、また、介入期間が短いため、健康度や唾液コルチゾール濃度への顕著な影響は認められなかった。
3.幼児のメディア利用と食習慣や虫歯罹患率との関連	共	2024年9月	第71回日本栄養改善学会総会	発表者：志摩史子、岸本三香子 幼児において、メディアを長時間利用する者は、間食時のながら食べが多く、虫歯罹患率が高くなる可能性がある。
4.2型糖尿病患者における食事療法達成感と生活背景および食事療法阻害要因との関連	共	2023年1月	第26回日本病態栄養学会年次学術集会（京都）	著者：小島史子、福田正博、倭英司 2型糖尿病患者において、食事療法を達成できていないと感じている者は、若年であり、平日の睡眠時間が短い可能性があり、運動習慣がない者が多かった。
5.スポーツ内科外来の現状と課題	共	2021年7月	日本スポーツ栄養学会第7回大会	発表者：小島史子、山本尚代、田中絢、田中祐貴 スポーツ内科外来の初診患者において、世代別では中高生が、競技別では陸上長距離選手が最も多かった。成長期や運動量が多い競技は、内科的な症状が生じやすいと考えられるため、注意する必要があると示唆された。
6.2型糖尿病患者における食行動と先延ばしとの関連	共	2020年1月	第23回日本病態栄養学会年次学術集会（京都）	発表者：小島史子、福田正博、倭英司 2型糖尿病患者において、食行動と先延ばしが関連し、先延ばしによる食行動の悪化は、血糖コントロールの悪化につながることが示唆された。
7.2型糖尿病患者における食物選択動機が血糖コントロールおよび食行動特性に及ぼす影響	共	2018年10月	第55回日本糖尿病学会近畿地方会（神戸）	発表者：小島史子、福田正博、倭英司 女性の2型糖尿病患者において、食物選択動機のメディア情報･人気が、血糖コントロールや代理摂食に関与していることが示唆された。
３．総説				
1.暑熱環境におけるコンディショニング（特集 アスリートのコンディショニングに貢献するトレーニング科学）	共	2017年	トレーニング科学 28(4): 161-166, 2017	著者：長谷川博、小島 史子
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

学会及び社会における活動等	
年月日	事項